

葉いもち防除の徹底を

今年の苗いもちの発生量は昨年よりやや多いと予想されています。いもち病は一度発生すると広範囲に感染が広がります。箱処理剤の普及により被害は少なくなっていますが、防除の徹底を改めてお願いします。

●補植用余り苗は作業が終わったらただちに処分しましょう。

補植用余り苗は、ほ場にあるだけで、いもち病の伝染源となってしまいます。補植作業が終わったらただちに土中に埋没するなどして確実に処分して下さい！

◎葉いもち予防のための箱処理剤施用や側条施用を行っていない場合は、オリゼメート粒剤を散布しましょう。

箱処理剤を施用した場合は散布の必要はありません。

※オリゼメート粒剤は6月15日頃（12～18日）の散布が目安です。（2kg/10a）

●もしほ場内でいもち病発生を見つけたら

持ち込み病斑やほ場の余り苗などからの伝染を早期に発見した場合は、予防剤と治療剤の混合剤（ブラシン剤等）の茎葉散布を行います。また、**営農センターへもご相談ください。**

●害虫の発生にも注意しましょう！！

箱処理剤を使用していないほ場では稲をよく観察し、イネミズゾウムシなどの発生が認められる場合はトレボン剤などの殺虫剤を散布して防除を行います。

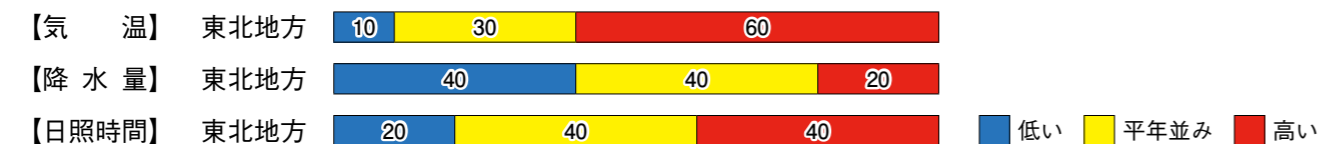
殺虫剤の一例

薬剤名	適用害虫	希釈倍率	使用液量	使用時期	使用方法
トレボン乳剤	イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ等	2000倍	60～150ℓ/10a	収穫14日前まで	散布

●天候にあわせた栽培管理を

「東北地方1ヶ月予報」 令和元年5月9日 仙台管区气象台発表

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>



異常還元

生ワラなど有機物の多いほ場では、夏にかけて温度が上昇する際に有機物が急激に分解され土壌が著しい還元状態（酸素の欠乏状態）になります。異常還元により硫化水素が発生し、有機酸などの有害物質が生成され、イネの根を痛めるため生育が抑えられ、茎数不足に繋がります。

対策として中干しを行い、土中のガスを抜きましょう。



No.3

農業技術情報

令和元年5月発行

発行：秋田おばこ農業協同組合／秋田県農業共済組合仙北支所
監修：仙北地域振興局農林部農業振興普及課



初期生育の確保と雑草防除の徹底

初期生育を確保するには水管理が重要!!

今年は数日ごとに天気が変わり、育苗管理や耕起、代かき作業に苦労した方も多いと思います。田植え作業もいよいよ本格化、初期生育の確保と雑草防除の徹底をお願いします。

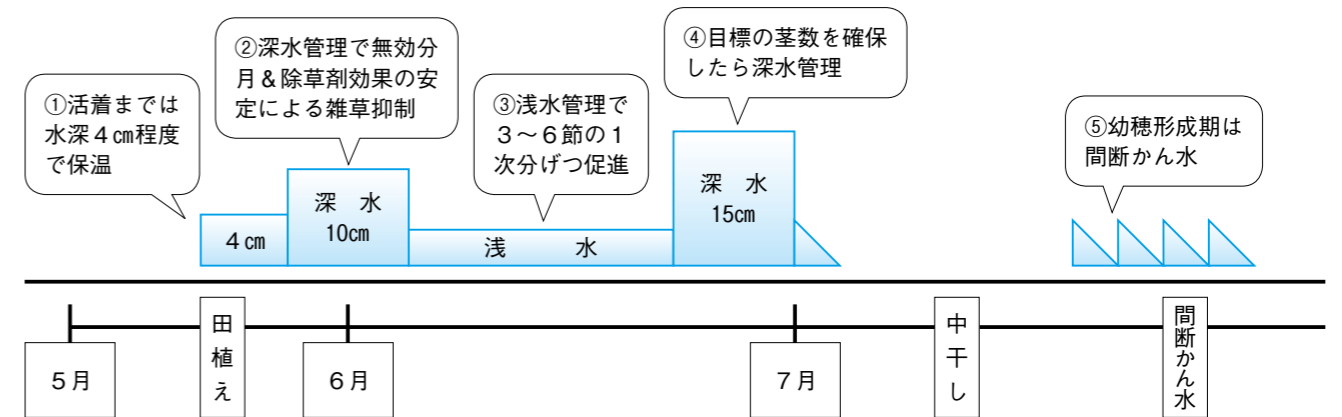
田植は活着を促進させるため、できるだけ日中の日平均気温が稚苗で13℃、中苗で14℃以上の日とし、できれば、最高気温が20℃以上の日に行い、最高気温が15℃を下回るような日は極力作業を控えます。

田植え時の栽植密度は70株/坪を基本とすることで天候に左右されにくく、安定的に生育・収量を確保することができます。

●田植え後の水管理

- ① 稲が活着するまで概ね4～5日ほどかかります。田植え直後は活着するまで水深4cm程度とし、保温効果が高めるためできるだけ湛水状態を保ちます。
- ② その後、10cm程度の深水を1週間ほど行い、初めに発生する充実した穂になりにくい分けつ、弱小分けつを抑えます。また除草剤はこの時期に散布します。
- ③ 深水管理を行った後は浅水管理を行い、日中と夜間の温度差を大きくし、充実した穂になりやすい分けつの発生を促進させます。
- ④ 目標の茎数を確保したら無効分けつを抑えるため、15cm程度の深水を7日程度行い、その後中干しを行います。
- ⑤ 中干し後は間断かん水とし、冷害の発生が予想される場合は深水管理を行い幼穂を保護します。

田植え後の水管理例



●側条施肥田植え機での施肥忘れの場合

条合わせなどで施肥を忘れた場合、田植え後約1週間ほどで葉色に差が現れます。確認後、直ちに施肥されていない部分に、硫安やおばこ専用14-14-14などの速効性肥料を用いて、部分追肥を行いましょう。

● 除草剤を効果的に使用しましょう

今年も雑草の生育は早まると予想されます。雑草が残ってしまうと養分競合による生育不良や斑点米カメムシ類による被害により収量、品質ともに大きく低下してしまいます。

確実に除草剤を効かせ、雑草の無いきれいなほ場を目指しましょう。

雑草は代かき直後から生育を開始します。初中期一発剤はノビエ2葉期頃までに散布すると最も防除効果が高くなります。ノビエは代かき後、早ければ約10日で2葉期に達するため、除草剤の散布は代かき後10日以内を目安に行う必要があります。

また、代かきと田植えの間をできる限り、短くすることにより余裕をもって除草剤を散布することができます。

除草剤は散布後、土壌表面に処理層を作ることで効果を発揮します。除草剤を散布する際は水尻をしっかり止め、ほ場にはできる限り水がたっぷりと張ってある状態にします。

除草剤散布後は7日間は入水、落水を行わず田面に処理層をしっかり作りましょう、水持ちの悪いほ場など、やむを得ず入水する場合は水口に板を置くなどして、ゆっくりと水を入れるようにします。

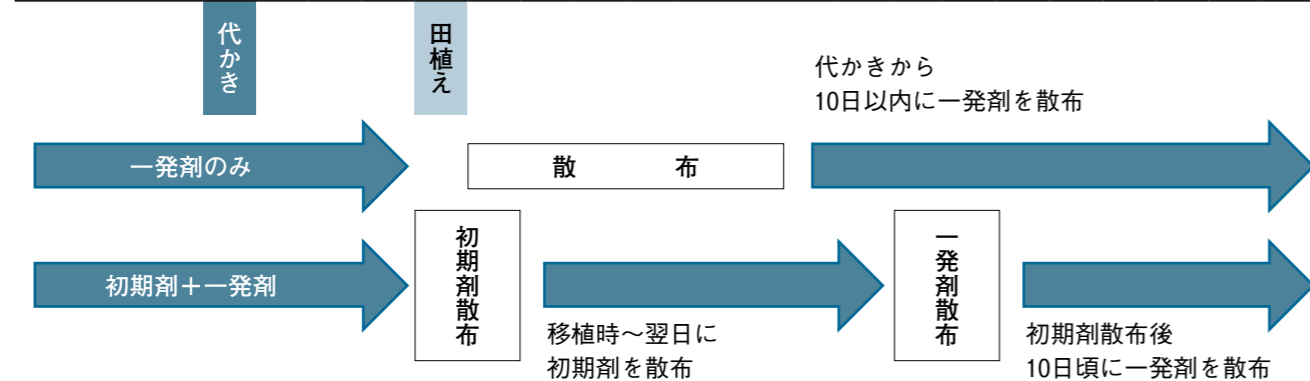
除草剤散布前にカナ（藻類、表層剥離等）が発生してしまった場合は、水の入れ替えやモゲトン粒剤を散布するなどして、カナをほ場から無くしてから散布します。

除草剤散布適期例と雑草葉齢進展の目安

・除草剤は草が見える前に散布することが基本です。
・気温状況により、葉齢進展スピードが早まる場合があります。

防除可能葉齢	効果限界葉齢	防除困難葉齢
--------	--------	--------

代かき後日数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
ノビエ								1.0葉			1.5葉			2.0葉			2.5葉			3.0葉	
ホタルイ														1.0葉							2.0葉
コナギ														1.0葉							2.0葉
アゼナ																					1.0葉



除草剤の成分には得意な雑草、不得意な雑草があります。次のページの表を参考に自分のほ場にどのような雑草が多いのかを考慮して散布する除草剤を選びましょう。

特にホタルイ等のカヤツリグサ科雑草が多いほ場は、斑点米カメムシのすみかとなってしまう品質が低下する恐れがあるため、注意しましょう。

前年、雑草の量が多かったほ場やオモダカ、クログワイなどの発生期間の長い雑草が繁茂するほ場などは、一発除草剤だけでは対応が難しいので、初期剤との体系処理をオススメします。

それでも残草してしまった場合は、残った草種に有効な中後期剤を散布しましょう。

● 水稻除草剤一覧

● 初期剤

	品名	使用時期	特徴
本田初期除草剤	メテオ1キログラム粒剤	植代後～移植前7日まで、または移植時 移植直後～ノビエ1葉期 但し、移植後30日まで	SU抵抗性雑草にも高い効果を発揮する 移植前、移植時、移植後の使用が可能
	メテオフロアブル		ノビエ、抵抗性雑草のアゼナ類・ホタルイ等に高い効果を発揮
	ソルネット1キログラム粒剤		スルホニルウレア抵抗性雑草にも高い効果を発揮する
	サキドリEW	移植直後～ノビエ1葉期 但し、移植後30日まで	ホタルイなどのカヤツリグサ科雑草、ノビエ、アゼナなどの水田一年生雑草に効果が高い
	シヨキニー250グラム		ノビエだけでなく広葉、カヤツリグサ科に高い効果を発揮
	ピラクロン1キログラム粒剤	植代後～移植前7日まで、または移植時 移植直後～ノビエ1.5葉期	

● 一発剤

	品名	使用時期	特徴	
本田初期一発剤	アクシズMX1kg粒剤	移植後7日～45日(ノビエ4.0葉期まで)但し収穫45日前まで	SU抵抗性雑草、オモダカ、クログワイの塊茎形成を抑制	
	アップレZ1* ₀ 粒剤	移植直後～ノビエ3葉期 但し、移植後30日まで	SU抵抗性雑草・難防除雑草に素早く効果を発現 バッチリの後継剤	
	ベンケイ1* ₀ 粒剤		SU抵抗性雑草・難防除雑草に効果的 畦畔からの侵入雑草を抑制	
		メガゼータ1* ₀ 粒剤	移植直後～ノビエ3葉期 但し、移植後60日前まで	SU抵抗性雑草・難防除雑草に効果的
		トップガンGT1* ₀ 粒剤75	移植直後～ノビエ3葉期 但し、移植後30日前まで	SU抵抗性雑草に効果的
		月光1* ₀ 粒剤		SU抵抗性雑草に効果的、ノビエに対する残効が長い ※浅耕、植え戻りの悪いほ場は葉害の懸念あり
	コメット1* ₀ 粒剤	移植直後～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで	SU抵抗性雑草に効果的、オモダカ、クログワイの塊茎形成を抑制	
	ウィナー1* ₀ 粒剤		問題雑草(ホタルイ、コナギ、アゼナ)に効果大 ノビエの発生を長期抑制	
	カチボシ1* ₀ 粒剤		SU抵抗性雑草に効果的、オモダカ、クログワイ等の多年生雑草に効果的	
カナ	モゲトン1* ₀ 粒剤	収穫45日前まで	藻類、表層剥離の発生時に使用	

● 豆つぶ、ジャンボ、液剤、フロアブル剤の使用前に…

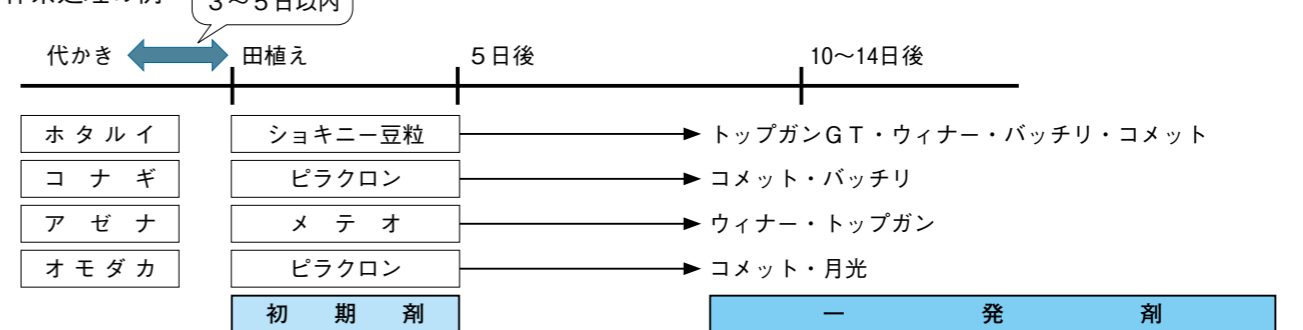
注意 以下のことを確認してから薬剤散布を行いましょう。

- ① 田面の均平がとられていることを確認しましょう。
- ② 必ず水深5～7cmで散布しましょう。隅の稲が水にくぐっても1～2日後には葉先が出るくらいに水を入れてから散布を行いましょう。
- ③ 風があるときは風上側に多めに散布し、風下側は少なめに散布して10aあたりの散布量を守りましょう。

● 草種別体系処理

各種抵抗性雑草が多いほ場では下記のような初期剤と一発剤の体系処理をオススメします。自分のほ場にどのような雑草が多いかよく見て使用する剤を選択しましょう。

○ 体系処理の例



一発剤散布後に雑草が発生した場合は有効な中後期剤を散布しましょう。

● 中後期剤

	品名	使用期間	特徴	
本田中後期除草剤	マメットSM1* ₀ 粒剤	移植後15～30日(ノビエ3.5葉期)	各種抵抗性雑草に効果あり、気温により葉害可能性あり	
	クリンチャー1* ₀ 粒剤	移植後7日～ノビエ4葉期まで	ノビエ専用剤 1.5* ₀ 散布でノビエ5葉まで効果がある	
	クリンチャーEW	移植後20日～ノビエ6葉期まで	ノビエ専用剤 展着剤加用 スポット処理可能	
	クリンチャーME	移植後15日～ノビエ5葉期まで但し、収穫50日前まで	ノビエと広葉雑草を同時に防除可能 落水散布	
	ヒエクリーン1* ₀ 粒剤	移植後15日～ノビエ4葉期まで但し、収穫45日前まで	ノビエ専用剤 効果は遅効的だが残効性あり	
	ヒエクリーンバサグラン粒剤	移植後15日～ノビエ4葉期まで但し、収穫60日前まで	ノビエと広葉雑草を同時に防除可能 落水散布	
	バサグラン粒剤	移植後15～55日但し、 収穫60日前まで 収穫50日前まで	広葉雑草専用 落水散布 殺草効果が高い	
	バサグラン液剤			
		フォローアップ1* ₀ 粒剤	移植後15日～ノビエ5葉期まで但し、収穫60日前まで	オモダカ、クログワイに効果が高い 効果は遅効的
		レプラス1* ₀ 粒剤	移植後14日～ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで	多年生雑草に効果が高い。 無人ヘリによる散布、または湛水散布
	アトトリ1* ₀ 粒剤	移植後20日～ノビエ4葉期まで但し、収穫45日前まで	オモダカ、クログワイに効果が高い 効果は遅効的	